

広東省におけるIP輸出と文化ビジネスの新展開

広州デスク 植 兆俊

中国南部に位置する広東省は、これまで「世界の工場」として製造業を中心に発展してきました。近年では、モノづくりの強みを基盤にしながら、知的財産 (IP) を活用した文化ビジネスに注力し、産業構造の転換を進めています。デジタル技術の発展や若い世代の創造力を背景に、広東省は今や中国における「文化輸出」の新たな拠点として注目を集めています。

広東省の中でも特に深圳は、テクノロジー産業の集積地として知られています。テンセントやビリビリといった中国を代表する企業が本社を構え、ゲームや映像、アニメ、音楽などの分野で世界的な IP を生み出しています。テンセントの『王者荣耀 (Honor of Kings)』はその代表例であり、ゲームとしての人気にとどまらず、アニメ化、音楽展開、e スポーツ大会の開催など、多方面に広がる「総合エンターテインメントビジネス」へと発展しています。こうした取り組みは、IP の創出・育成・輸出を一体的に行う広東省の強みを象徴しています。

また、広州や佛山などでは、伝統文化と現代コンテンツ産業の融合が進められています。嶺南文化に根ざした美術や工芸、建築、食文化などをモチーフに、アニメやデザイン、観光資源として再構築する動きが活発です。地域の神話や歴史を題材にした映像作品の制作や、伝統的な意匠を取り入れたキャラクターデザインなど、地域性を活かした創作活動が国内外で評価を高めています。これらの取り組みは、単なる文化保存ではなく、「地域の魅力を国際的に伝える新たな表現」として位置づけられています。



嶺南文化をモチーフにして創られた広東獅子舞キャラクター (筆者撮影)

さらに、広東省は地理的にも国際的な文化ビジネスに適した環境を備えています。香港・マカオとの経済連携が進む「粤港澳大湾区 (グレーターベイエリア)」構想のもと、金融、法務、人材などの面で国際的なネットワークが強化されています。香港を通じた国際映画祭への参加や、海外クリエイターとの共同制作など、越境的なプロジェクトが増加しています。こうした動きは、広東省がアジアにおける文化産業のハブとして機能していることを示しています。

一方で、国際的な IP 展開には課題もあります。特に、独自の文化的アイデンティティをどのように世界へ伝えるかが重要なテーマです。日本のアニメや韓国の音楽が確立したような「地域ブランド」を形成するためには、広東省が持つ開放的で多様な文化性を、現代的な物語やデザインに落とし込む努力が求められます。また、知的財産の保護体制を国際基準に合わせて整備することも不可欠です。広東省政府はすでに深圳や広州に知的財産保護センターを設置し、クリエイターや企業が安心して活動できる環境づくりを進めています。

総じて、広東省における文化ビジネスは、製造から創造へと軸足を移す経済転換の象徴といえます。テクノロジーと伝統文化を融合し、地域の魅力を発信する取り組みは、国際的な評価を高めるだけでなく、地域社会の持続的な発展にもつながっています。今後も広東省は、アジアにおける文化創造のリーダーとして、世界市場への影響力をさらに広げていくことが期待されます。



「粤e人」のレタスちゃん。広東語でレタスを「生菜」と読み、「生財」(富が集まる)と発音が似ているためレタスが好まれる。 SINA新浪财经网

<https://finance.sina.com.cn/wm/2025-01-19/doc-inefnxky1271525.shtml?ref=cj>

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界10カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。